

北は小坂町、南は湯沢市まで秋田県の元気な集落の情報満載

元気ムラ通信

2号

- 発行：秋田県企画振興部
活力ある農村集落づくり支援室
- 電話：018-860-1215 ■FAX：018-860-3875
- 住所：秋田市山王4丁目1-1
- メールアドレス：katsu@pref.akita.lg.jp
- 発行日：平成26年2月1日



住民の対話の場が 地域の活力を生む土台づくりに

▲五城目町の台・御蔵下町内会で行われた住民座談会の様子。現在、町内の全71町内会で実施しています。



▲堀回地区コミュニティ推進委員会（羽後町）は住民一人一人の話を聞くことを心がけ、住民の意見のまとめ役として活動しています。

県内の自治会、町内会では、少子高齢化、過疎化等により地域の担い手が減少し、日々の暮らしに影響を受ける地域が増えています。住む場所は異なりますが、皆、同じような悩みを抱えています。また、同じように見える地域でも多様な魅力やお宝を持っています。このような秋田県の中で、住民が集まり地域に関心を寄せて、地域の将来を話し合う「対話の場」が各地で実施されています。

五城目町では元気な地域づくりに町内会単位で取り組んでいただくため、平成26年度から「元気な地域づくり応援プロジェクト」を実施します。プロジェクトでは、地域活動の拠点となる集会所の改修や、元気な地域づくり活動への資金支援が予定されています。その土台となる地域の見つけ直しと将来像づくりに向けた座談会を現在、全71町内会で開催し、住民の皆様が男女・年代の別なく集まり、地域の課題や将来像を話し合う場づくりを進めています。

横手市では市内35地区92人の住民が集まり「横手市地域づくり座談会」を開催。近隣住民同士で支え合う「共助」の意識の醸成や仕組みづくりの推進を目的に地域自慢の食材を持ち寄り、意見交換を行いました。

「将来が不安だが何をすればよいのかわからない」「活動したくても人がいなくて動けない」。人口減少社会において、将来の不安はつきませんが「自分たちにできる事」を探し「とりあえずやってみるか」と行動することで新たな活力を生み出す地域も増えています。

地域の活力の土台となるのが、まさに「対話の場」です。男性、女性、高齢者、若者の垣根を越えた一人一人の力が人口減少社会を生きる中で大きな力となっていきます。



▲五城目町の各町内で行われている座談会の様子。「地域の課題」「望ましい地域の将来像」など、住民一人一人の意見を町の職員が模造紙に書いて見やすくまとめています。



▲平成25年12月19日に行われた「横手市地域づくり座談会」。いぶりがっこ、寒天、梅の加工品など地域の特産品を味わいながら他地区の住民同士の交流が行われました。

元気ムラの活動から 地域の悩みを 解くヒント

地域の将来が不安……でも何をすれば良いのかわからない。そんな気持ちを抱いている地域も多いのではないのでしょうか？

今回の元気ムラ通信では県と市町村で作る「秋田県高齢化等集落対策協議会」が実施した「自治会・町内会等の住民自治組織に関するアンケート調査」を元に、実際寄せられた地域の悩みを取り上げ、それに対して参考になるような県内地域の活動を一緒にご紹介します。

自治会・町内会等の住民自治組織に関するアンケート調査について

「秋田県高齢化等集落対策協議会」が秋田県内の自治会・町内会を対象に行ったアンケート調査です。

アンケートの目的

県と市町村でつくる「秋田県高齢化等集落対策協議会」では、高齢化や人口流出が進む秋田県内において、そこに住む地域の人々が安心して誇りを持って生活できる対策を進めています。

今後どのような対策を講じていくべきか地域の皆様と探っていくため、地域の現状を把握し、地域が元気になるための可能性や課題をアンケート形式で調査しました。

実施期間 平成25年(2013年)7月～12月

対象地区数 20市町村、約3,300自治会・町内会
※2040の自治会・町内会から回収

※現在、集計結果をとりまとめています。追って元気ムラ通信でも内容をご紹介します。

アンケートに寄せられた声
その1

地域行事で若者の参加を増やしたいが集まらない。
将来の担い手が不安。

若者

元気ムラの活動事例

湯沢市・若畑地域

●所在地／湯沢市皆瀬 ●地域人口／10世帯38人
(平成25年6月30日現在)

全国から集まった集落関係者



子世代からの率直な意見



若畑紅葉まつり

仙台で意見交換会を開催

若畑地域は、平成25年3月、住民17人と、東京、神奈川、千葉、埼玉、宮城、長野在住の集落出身者8人が宮城県が仙台市に集まり「集落を残す」をテーマに意見交換会を行いました。50代を中心に「若畑紅葉まつり」など元気な活動を行っています。10～20年後の将来には不安を感じており、元気なうちに子供たちと課題を共有したいと仙台に集まりました。

子供たちからは「今は仕事を辞めて地域に戻るの難しい」と率直な意見が出ましたが、「役割を与えてくれれば年に2、3回戻ってこれる」「定年後に戻りたい」という意見も。この意見交換会のポイントは、親世代と子世代が意見を出し合える場を持つことができたことです。普段の暮らしで親子が集落の存続を語り合うことも、集落関係者が一同に会す場もなかなかありません。このように出身者も集落の一員と位置づけ「将来づくりの対話の場」を作ることが、集落存続の第一歩になるのではないのでしょうか。

アンケートに寄せられた声
その2

除雪に苦慮している。
災害時の緊急対応を
考えていきたい。

防災

アンケートに寄せられた声
その3

町内会で収入源をつくり
生きがいづくりに
活用してみたい。

収入

元気ムラの活動事例

横手市・狙半内地域

元気ムラの活動事例

大館市・山田地域

●所在地／横手市増田 ●地域人口／178世帯538人
(平成25年12月31日現在)

●所在地／大館市田代 ●地域人口／222世帯749人
(平成25年6月30日現在)

救命講習会の開催



住民によるきのこの里づくり



防災備品の装備



災害時の地域の孤立化を想定



原木マイタケのほだ木づくり



子どもの地域教育

住民の防災意識を高める

6集落で構成される狙半内(さるはんない)地域。国道342号から県道274号を通り、狙半内川に架かる橋を渡ると地域に入りますが、この橋が崩壊すると増田中心部に続く道路が寸断され地域は孤立します。

この孤立化を想定し、平成24年、狙半内地域センター運営協議会(6集落の住民で構成)が主体となり防災訓練を実施しました。行政による救助・救出活動が行われるまでの72時間を住民一人ひとりが助け合って避難生活ができるよう、防災意識の高揚を図っています。さらに平成25年は横手市と連携し防災訓練と救助講習会を行うとともに避難所となる各集落会館に投光器や発電機、ヘルメット等の防災用品を配備しました。

このような狙半内地域の防災の取り組みは、近隣の地域にも広がり、同じ増田地区の亀田地域でも平成25年に防災ヘリを使った防災訓練を実施しています。

10年後の将来像を設定

山田地域は地域の部落所有林を活用し「原木マイタケ」のほだ木製作を行い「きのこの里づくり」を進めています。平成25年からは首都圏での販路拡大を目的に東京都銀座のビル屋上でマイタケの試験栽培を開始。同じビルでミツバチを育てている「NPO法人銀座ミツバチプロジェクト」を地域に招き交流も行っています。活発な活動が注目される山田地域ですが、これらの活動は「地域の高齢者の出番を増やしたい」という思いが元になっています。

「山田の伝統を守りたい」「山田を担う人を育てたい」…10年後に「こうありたい」という将来像を住民が設定し、その目標実現に向けた活動を行っています。地域の担い手である子供の教育も熱心です。地域の新年会には祖父母、親の世代に混じり小中学生も同席しています。「山田“菜”発見市」では子供に直売の店番を体験させ、幼い頃から地域行事に触れることで、地域の一員としての自覚を育てています。

地域の“想い”を発信！

声

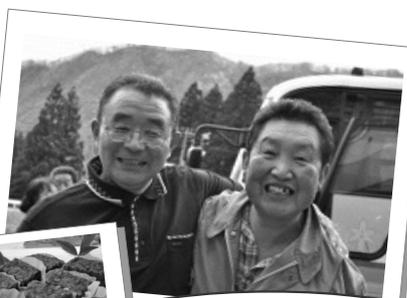
元気ムラからのメッセージ

秋田県
最南の

つばきだい
東成瀬村・椿台集落 代表 鈴木春一さん



あずきでっち



鈴木春一さん(左)と
上小阿仁村・南沢の伊藤信義さん(右)
平成24年の集落間交流にて

昨年末からの豪雪に東成瀬村では1月13日に豪雪対策本部を立ち上げ、我が部落では当日272cmの積雪を記録。これからの厳冬に想像のつかない毎日の雪の対応に空を仰ぐだけです。現在、民生委員と共に有志で3軒の高齢者宅の雪下ろしと雪掘(窓掘)を4回行いましたが、今後も3~4回はあるのではないのでしょうか。そのような中でも住民の皆さんは心配りをしながら高齢者は転ばないように毎日の生活を頑張っていただけだと思います。さて、このような中でも希望でも夢でも「何かみんなで共有の考えられる課題を持ちたい」と思い1つ、自分の思っていることを書いてみます。



平成25年に行われた
椿台集落と南沢集落の交流

先代から地域で受け継がれた「あずきでっち」。簡単な軽食やお茶菓子にもなるので、母さん方で作り、みんなで売りに行きたい夢があります。できれば何らかの方法で実行してみたいとの希望があり母さん方に喜びを感じてもらえる事も、部落内を明るくできる要素ではないかと思っています。

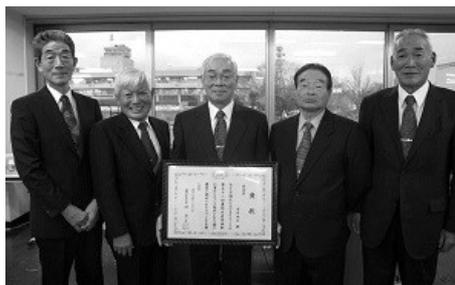
人口減少、高齢化と言われる中、平成23年から2年かけ、地域最良の場所に桜の木50本を共同作業で植えました。じきに満開の桜の下で花見や運動会などの共有の場になると思うと楽しみです。

県民の足下は、今いるみんなでその場所を明るくするように元気ムラのみんな元気で頑張っていこう、よろしく！

大仙市

あまるめ

余目地域が「農林水産大臣賞」を受賞！



受賞した余目地域の皆さん

農林水産省と(財)日本農林漁業振興会の共催で毎年11月23日に開催する「農林水産祭」。全国でむらづくりに取り組む集落、団体を毎年表彰しています。このたび、大仙市・余目地域が、「豊かなむらづくりに取り組む全国表彰事業」の「農林水産大臣

賞」を受賞しました。住民一戸一戸の特技を持ち寄れば大きな輝きとなる「一戸一輝」をキャッチコピーに活動しています。直売所やそば処の運営など元気の活動が評価されました。余目地域のみなさん、おめでとうございます！

編集後記

今年度、新たに中石(男鹿市)、大沢(藤里町)、木下(きじた、横手市)、鶴形(能代市)、男鹿中(男鹿市)、西野(五城目町)の取材を進めています。地域の見どころを住民の皆さんに教えてもらっていますが、藁で作られた「鹿島様」「鍾馗(しょうぎ)様」や石像の造形にほれほれしてしまいます。ムラの「芸術」は車で移動していると見逃しがちです。歩いてみると発見できる世界ですね。



男鹿中地域にある石像→

元気ムラの食文化



鯖の水煮うどん
にかほ市・横岡地域

鯖の水煮を使った郷土料理

全国的に注目される郷土料理。地元の人には「当たり前」でも外から見れば珍しい！そんな料理が各地に眠っています。山形県では「鯖(さば)」を使ったうどんが注目を浴びていますが、県境で接するにかほ市や由利本荘市にも鯖の水煮の缶詰を使った食文化が伝わっています。



夕顔と鯖の水煮を使ったお味噌汁！

由利本荘市・上笹子地域
夕顔汁

鯖
さば

お問い合わせ

発行/秋田県企画振興部活力ある農村集落づくり支援室

- 住所/〒010-8570 秋田県秋田市山王4丁目1-1
- 電話/018-860-1215 ●FAX/018-860-3875
- E-mail katsu@pref.akita.lg.jp



元気ムラサイトを
携帯電話・スマートフォンで
見たい方は
←こちらから！